目線



　**『三国志』　　　宮城谷昌光　著**

　『三国志』への入りは、横山光輝のマンガでした。文庫で三十巻あり、マンガとはいえ読み応えのあるものでした。その後、北方謙三の『三国志』を経て、今、宮城谷昌光のものを読んでいます。これまでの三国志では、特に諸葛亮孔明が人並み外れた知力を備えていて、戦では神がかり的な采配を振るい自軍を勝利に導く、いわば完璧な存在として描かれることが多かったと思います。

　しかし宮城谷版での諸葛亮は、軍師としては凡庸な人物で、我々と変わりありません。そして戦いをするたびに少しずつ成長する存在として描かれています。文庫版の第九巻では、「諸葛亮の感覚には畏怖というものがなく、とくに軍事において敵の武将を恐れたり、尊敬したり、ということがなく、己よりも下の者を視つめるめつきでみた。諸葛亮の用兵における魯（にぶ）さは、じつはそこにある。」と、その筆致も冷静です。

　この宮城谷版の『三国志』は文庫で九巻まで発行されています。単行本は十二巻で完結しましたが、文庫は今後半

年に一巻ずつ発行

されるようなので

もう少しその物語

を楽しめそうです。

*あしたのために*

 *for tomorrow*

***April 9, 2012→March 1, 2015***

*その２５ November 18, 2013*

北海道小樽潮陵高等学校

*２年E組学級通信　発行者：中矢秀人*

感受性を豊かに（六十）

この学級通信は､君たちと私の明日のために、週１回発行する予定です。

　まずは堅いお話しから。　教育基本法の第一条は、（教育の目的）として以下のように条文が続く。「教育は、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行われなければならない」。仮にこの条文の通り「人格の完成」というものがあるとすれば、私などは到底「完成」の域には達しておらず、いたずらに４３まで年を重ねてきたということになるだろう。そんな人が多いからこそ、昨今、「生涯教育」や「生涯学習」の必要性が強く叫ばれているのかも知れない。

　教育に関わる言葉で、嫌いなものを上位から順に挙げてみる。①「ほめて育てる」、②「やればできる子」、③「子供の目線に合わせて」。①については、例えば、遅刻の多い生徒がきちんと登校してきたとき目をキラキラさせて「今日はちゃんと来ました」と、いかにもほめて欲しそうに近寄ってくることがある。ちゃんと来るのはフツーの話で、それなら毎日きちんと来ている生徒の方がよっぽどエラい。それに、何でもかんでも「ほめる」のは、かえって相手をバカにしていることにならないか、と思うこともある。「できるとは思わなかったけど、よくここまでできたね」、という具合に。もちろん私も、ほめることがまったくないわけではないが、ほめるときには徹底的かつ効果的にほめたいとは思う。②について、「やればできる」を英語に直せば、 “I could do it.”　といったところだろうか。もうそろそろ、実際にやって、結果を見せてくれてもよい時期なのではないか。仮定法は、英文法の授業では「現実にはあり得ないこと、起こりそうもないことなどを仮定し、そこから導かれる想像を述べる表現である」と説明されることが多い。だとしたら、「やればできる子」はいつできるのだろうか。

　今日は、③について考察を深めたい。小学校に入学したばかりの子や幼稚園児に対しては、もちろん「子供の目線に合わせて」指導する必要はあると思う。しかし、少なくともあと１年あまりで高校生活を終えようとしている高校２年生に対して、私はその必要はないと考える。むしろ、君たちの方から「大人の目線」にドンドン近づいてくるべきだ。例えば、欠席連絡一つにしても、まだ多くの場合、朝保護者の方から頂くことが多い。「忌引」やインフルエンザで「出席停止」など通常の欠席とは異なる場合や定期考査を欠席する場合には、保護者からの連絡が必要だが、普通の風邪ぐらいなら自分で連絡してきたらどうだ？高校卒業後のことを想像して欲しい。大学を欠席する際に連絡を入れるなんて話は聞いたことがないし、社会人になって仕事を休まなければならないときに保護者が欠勤の連絡を入れているようでは、笑い話にもならないだろう。中には、自分で連絡を入れてくれる生徒もいるが、いかにも具合が悪そうに蚊の泣くような声で連絡をしてくる者もいる（こういう者を私は「役者」と呼んでいるが）。本人にしてみれば本当に具合が悪いのだろうし、そのことを疑っているわけでもないのだが、用件ははっきり伝えてくれ、と正直思う。具合が悪いときに具合が悪いフリなんか誰にでもできる。「具合は悪いけどヘッチャラだぜ！」美学といえば大げさだが、そのぐらいの気持ちは持てないものだろうか。何事もへばってからが勝負だ。特にスポーツにおいてはそうである。だから、アスリートはへばっていたとしても、それを相手に悟られないようにすることに苦心するものだ。そうでなければ、そのスキを狙われるからだ。

　２年生になってから７ヵ月あまり、欠席日数が「１０」を越える生徒もチラホラ出てきた。具合が悪ければ、もちろん休めばいい。ただ、その中に、「頑張れば来ることができる」日があるのだとしたら、来た方がいい。夏休みを除けば、約６ヵ月間の中で、１０日間欠席しているとすれば、１ヵ月に１～２日のペースで休んでいることになる。私が同じように休んでいれば、「ウチの担任、休みすぎじゃね？」と首を傾げたくなるだろう。大人がやって、「あれ、おかしいな」と思うことは、子供がやってもおかしなことだし、大人になる一歩手前にいる君たちなら尚更だろう。

　「大人の目線」でさらに続ける。春になるとよく耳にすること。「なぜ自分はこのクラスなのか」、「クラスに友達が一人もいない」など。要するにクラス替えに対する不満だ。誰にだって「合う・合わない」はあるし、私にも、あまり深く掘らないで欲しいが、ある。私が、○○先生とは合わないからといって、職員室でまったくコミュニケーションを取らないとすれば、雰囲気は悪くなるだろうし、業務も滞ってしまうだろう。挙げ句の果てに、君たちへも影響するようでは、それは「仕事」とは呼べない。「合わない」人に助けられることも、「合う」人と共倒れになることもあるのが人生だ。本来、春は変化を楽しむ季節だ。卒業・入学・クラス替え…など。私はワクワクするが、そういう変化が苦手な人がいることも承知しているが、だからといって、それを避けることはできない。「ツマラナイ」という嘆きも、時々聞こえてくるが、それは「君がツマラナイからではないのか」というのは厳しすぎますか？クラス替えについて、不満を言えるのは来年の春がラスト・チャンス。大学や会社に勤めるようになってからでは言えないでしょ。ただジョークだと思いたいが、「ウチの子のゼミのメンバーを代えてくれ」という苦情が大学に、「なぜウチの子がこの部署なのか」という苦情が就職した会社にくる時代だという。ややこしいね。

　２学期期末考査時間割

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 11/26Tue | 11/27Wed | 11/28Thu | 11/29Fri |
| 1 | 英語Ⅱ60 | 古典60 | 化学50 | 現代文60 |
| 2 | 数学Ⅱ100 | 地理50 | 数学Ｂ100 | ライティング50 |
| 3 |  | 物理/生物 | 保健40 | 現社50 |
| 4 |  | 50 | いじめｱﾝｹｰﾄ |  |
|  | 11:40放課 | 11:55放課 | 12:40放課 | 12:00放課 |

※定期考査直前の１週間を本気で勉強できない人は、これからの１年間に及ぶ「受験勉強」にも取り組めません。今回の定期考査を、そのための試金石としよう！！